

「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある校長会」を目指して

佐賀県小中学校校長会

会長 石 井 博 善

今年度、会長を務めさせていただきます佐賀市立東与賀中学校 石井博善でございます。

今回67年の歴史ある佐賀県小中学校校長会 会長の大役を仰せつかりました。何分微力ではございますが、深草光明 前会長の意を引き継ぎ、本会の目的を達成し、本県教育のさらなる振興・発展に向け、任を果たしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、近年、情報化グローバル化が加速度的に進展し、将来の予測が困難な時代となっています。その特徴として変動性 Volatility、不確実性 Uncertainty、複雑性 Complexity、曖昧性 Ambiguity の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われています。新しい技術や産業、環境問題、自然災害、国際情勢の不安定化などは、まさに予測困難な時代を象徴しており、一人一人が豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっています。

そのような状況の中、私たち校長は、学校経営において、学力向上、いじめや不登校等の諸課題、特別支援教育の充実、GIGA スクール構想の推進、働き方改革などの課題解決に向けた取組を進めなければなりません。当面する課題や子どもたちの未来を見すえ、学校経営を行っていくことは大変なことです。だからこそ、この佐賀県小中学校校長会の存在意義があると考えます。

このような状況に鑑み、今年度の佐賀県校長会のスローガンは、昨年度に引き続き「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある校長会」としています。

校長は、判断と決断の連続です。内容の大小にかかわらず、判断をする過程においては孤独を感じる場合もあると思います。私自身、本当にこれでよいのかと判断に迷ったり心の中で焦ったりすることも多々ありました。しかし孤独にはなっても、孤立はしてはいけないと思います。地区校長会や県校長会には信頼できる仲間がたくさんいます。校長同士が信頼関係のもと、情報共有をしたり課題に取り組んだりすることが、学校経営において有意義なものをもたらすと思います。それが、スローガンの「互いの尊重と協働」という部分です。

「しなやかさ」とは、包容的で柔軟なものの見方、捉え方、考え方、場合によっては大胆な軌道修正力を併せ持つことであり、このような柔軟な見方、考え方で、子どもたちにとって、学校にとっての最善を求めて取り組むということを表しています。また、しなやかさをもちながらも、決してその本質を見誤ることなく、信念に基づき、子供たちのため、職員のために常に高みを目指す集団でありたいという願いが、「高きに和す」という言葉に込められています。そのような集団で先を見通した判断力と実行力を私たちがもてるよう地区や県の校長会で議論することで「存在感のある校長会」を目指したいと思っています。

本年度、新しく49名の校長先生方を迎えた221名で、「互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある校長会」として、ともに教育課題に真摯に向き合い、前進していきたいと考えております。

1年間、どうぞよろしくお願いいたします。